

都城高専の新生徒寮完成

国際寮留学生と交流促進

都城市の都城高専（田村隆弘校長、846人）で、国際寮を含む新高千穂寮（計5棟）がすべて完成した。国際寮では今月から外

国人留学生と日本人学生が共同生活を送りながら交流を図り、生徒たちのグローバル感覚を養う。同校は国際舞台で活躍で



都城高専の生徒と外国人留学生が共同生活できる国際寮

きる人材育成に力を入れている。現在の留学生は3人（フィリピン、インドネシア、ウガンダ国籍）だが、今後3年間で10人以上に増やす方針で、授業以外にも生徒と留学生が交流できるように国際寮を設置。旧寮が築約60年で老朽化していたため、今年3月までに全棟を建て替えた。



都城高専の国際寮

国際寮（3階建て）は全て個室の68室（管理室2部屋）。留学生と日本人生徒6、7人が1ユニットとして共同生活するイメージで、個室に囲まれるように談話できる共同スペースを配置した。催しを企画できるラウンジスペースも設けた。後期授業が始まる今月下旬に留学生3人と希望する男女生徒9人が入寮する。8月27日には地元公民館長や市の関係者に国際寮が公開された。

高千穂寮のほかの棟は、男子寮2棟（3階建て）、女子寮1棟（同）、管理棟（2階建て）。計420人が利用でき、約280人が入寮している。（三輪誠）

★「プレみや」にも掲載